

聖 霊 ・ 堅 信 の 秘 跡

B・ノヴァク神父（神言会司祭）

聖霊は、すでに旧約の時代に約束されました。預言者イザヤは神によって遣わされるメシアが神の霊である聖霊によって満たされることを知らせました。「エッサイの株からひとつの芽が萌えいで／その根からひとつの若枝が育ち／その上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊／思慮と勇気の霊／主を知り、畏れ敬う霊。」（イザ 11,1-2）イエス・キリストは、「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。」（ルカ 4,18）と語ることによって、イサヤの預言がご自分において成就されたと宣言しました。イエスの教えを聞き、イエスの行いを見て、復活されたイエスと出会ったペトロは、イエスの宣言が事実であったことを証したのです（使 10,37-38）。

聖霊によって満たされて、救いのわざを成し遂げられたイエスは、ご自分の弟子たちに聖霊を与えることを約束しました（ヨハ 16,12-15；使 1,8）。イエスの約束通りに聖霊を与えられたペトロはエルサレムに集まっていた人々に向かって次のように呼びかけました。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」（使 2,38-39）このようにペトロは、神がご自分の霊をすべての人にお与えになりたいことを知らせたのです。

どうして神がすべての人々に聖霊をお与えになりたいかということ、また、聖霊ご自身のことと聖霊の働きをある程度まで理解するために、三位一体の神秘を見る必要があります。神の内面的な命を現す三位一体の神秘は、人間の考察の結論ではなく、神ご自身がご自分を啓示することによっ

て、人間に知らせたことなのです。この神の自己啓示について、ナジアンズの聖グレゴリオは、次のように語ります。「旧約聖書は、御父を明瞭に、御子を漠然と告げ知らせました。新約聖書は御子を明らかにし、聖霊の神性を垣間見せました。今や、聖霊は私たちの間ではっきりと認められ、私たちにご自分を明らかに示されます。」元々イスラエル人たちは、他の民族と同じように沢山の神々を信じていました。けれども、この民の歴史の中で特別な働きをされた神は、ご自分が唯一の神、全世界の創造主、つまりあらゆる存在と命の源である父であることを知らせてくださいました。この世に来られた御独り子を通して神は、無条件に、また、無限に私たちを愛しておられる救い主としてご自分を現してくださいました。私たちを最後まで愛し、ご自分の命をささげることによって、ご自分の使命を果たして、御父のもとに戻られた御子は、御父の霊であり、また、ご自分の霊である聖霊を遣わしてくださいました。現在聖霊は、教会の中で、また、教会を通して働いて、イエス・キリストが成し遂げられた救いのわざを完全に導く方としてご自分を現してくださいています。このように、救いの歴史の中で、神は、ご自分自身を唯一の神として、と同時に、御父と御子と聖霊という三位の方（位格、ペルソナ）として啓示してくださったわけです。

三つの別なペルソナが唯一の神であることは、確かに非常に大きな神秘であって、私たちの理解力を超えるものですが、この神秘から少なくとも次のようなことが分かると思います。すなわち、神は唯一であります、孤独な存在ではないこと、また、ご自分のためにだけ生きておられるのではなく、他者のために、他のペルソナのために生きておられる方であるということなのです。聖ヨハネが書き記した通りに（1ヨハ4,16）神は愛です。つまり神は、愛しておられる方であるのみならず、愛そのものなのです。ですから、三位一体の神秘は、実は、愛の神秘なのです。この神秘から、完全に愛し合う複数のペルソナは、一体になるほど完全に一致することが分かります。ですから、愛し合う人にとって死によっても破られない

絆となっている愛は、完成させることによって、完全な一致をもたらすものであると言えるわけです。

他者を愛するとは、自分自身を相手に献身すること、また、相手をありのまま受け入れることであるということイエス・キリストがご自分の生き方、特にご自分の死によって教えてくださったのです。御父から常に生まれている御子は、御父の完全な自己認識、完全な自己表現です。御子は、すべてを御父から受け入れて、ご自分のすべてを御父に与え、ご自分の存在を御父のための贈り物にされます。御父と御子の相互愛は、御父と御子は、一体になるほど完全な一致をもたらすものであるだけでなく、聖霊というペルソナになるほど、完全なものとなるのです。この意味で、聖霊は御父と御子の相互愛の実りであり、人格的な愛であると言えるわけです。御父と御子と聖霊という三つの方が互いに愛し合っておられるとは、お互いに与え合い、また、受け入れ合うということです。御父と御子と聖霊の愛は、完全ですので、父と子と聖霊は完全に与え合い、完全に受け入れ合っておられる結果として、一体になっておられるわけです。こうして、父と子と聖霊は別々なペルソナであっても、同じ本質（神聖）を私有するために、平等であり、一体になっているために、唯一の神なのです。

確かに、私たちはいくら探しても、この世の中でこのような完全な愛を見つけ出すことができません。けれども、心の中でこのような愛を求めていますし、このような愛だけが私たちの心を満たすことができるのです。なぜなら、私たちは、完全な愛の交わりである三位一体の神にかたどって、また、この愛の交わりにあずかるために創造された存在であるからです。

神が人間を愛しておられるとは、人間にご自分を与えたいということ、また、人間を受け入れることによって、人間と一つになることを求めておられるということなのです。つまり、神が私たちが愛しておられるからこそ、私たち一人ひとりをご自分との愛の交わりに招いてくださるわけです。

幸いに、私たちはこの愛の交わりに招かれているだけでなく、イエスが成し遂げてくださった救いのわざによってこの招きに応えることも、神

の愛の交わりに参与することも可能になったのです。実は、御父と御子が五旬祭の日に遣わしてくださった聖霊を受けることによって、弟子たちは神の愛と命を受け入れて、神との愛の交わりに生きるようになったのです。この時以来、聖霊は弟子たちの中で働いて、彼らを三位一体の神との完全な交わり、つまり神との一致に導いてくださったのです。聖霊は、今でも遣わされていますし、今でも働いておられるのです。

人間を神との愛の交わりに導いて、神との一致を実現させるために聖霊は、信仰の恵みを与えてくださり（1 コリ 2,11; 12,3）、神に近づくのを妨げるものを示してくださり（ヨハ 16,8）、神の愛と命にあずからせてくださることによって、人間を神の子にしてくださいます（ロマ 5,5; 2 コリ 13,13; ロマ 8,15）。要するに、罪によって死んでいたか、傷ついていた人間を「主と同じ姿に造りかえられて」（2 コリ 3,18）、「罪のためにそうではなくなっていたのに、再び神に似た者とされるのです。」（カトリック教会のカテキズム 734）

ラオディセアの聖イグナチオスが、聖霊について書いた言葉は、聖霊の働きとその重要性をきれいに描いています。「聖霊がいなければ、神は遠い存在であり、キリストは過去のもの、福音書は死んだ文字、教会は普通の組織、福音を宣べ伝えるのはプロパガンダ、典礼はただの劇、掟に従って生きることは奴隷の道徳であったでしょう。けれども、聖霊の力によって、神は近い存在であり、復活したキリストはいつも共にいてくださる方、福音書は命の源、教会は生きている共同体、典礼は神と出会う場、掟に従って生きることは真の幸福となっていることなのです。それらすべては聖霊が教会において実現するものです。」

堅信の秘跡

「堅信の秘跡は、洗礼および聖体と一緒に組み合わせられて、『キリスト教入信の秘跡』を構成します。この三つは一体でなければなりません。したがって、信者には、堅信の秘跡が洗礼の恵みの完成に必要であることを説明しなければなりません。」(カトリック教会のカテキズム 1285) ですから洗礼を受けた人は、いただいた恵みに忠実に生き、キリストを証しする使命を果たすために、堅信の秘跡が必要です。この秘跡の実りを使徒たちの五旬祭のときの体験においてははっきりと表されます。

使徒たちは、イエスに従ってから、3年間以上にイエスとともに生きて、イエスご自身の言葉を聞き、イエスの行いを自分の目で見てきましたが、イエスのことを理解することも、イエスから与えられた使命を果たすこともできませんでした。イエス・キリストの過ぎ越しの体験、つまり、イエスの十字架上の死と死から復活されたことを体験してもこの現状は変わりませんでした。それにもかかわらず、復活されたイエスは使徒たちに向かって、「あなたがたはこれらのことの証人となる。」と言われました。ただし、すぐその後に使徒たちがイエスの救いのわざの証人になる理由を表し、必要な指示を与えてくださったのです。「わたしは、父が約束されたもの(聖霊)をあなたがたに送る。」そのために、宣教活動を始める前に、「高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」(ルカ 24,48-49)と命令されたわけです。使徒たちは、イエスの命令に従ってエルサレムに留まり、イエスが十日後に遣わしてくださった聖霊を受けた後にすぐ、イエスを証しし始めたのです。彼らの言葉を聞いた人々は、非常に強い印象を受けて、「彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っている。」(使 2,11)と使徒たちについて言ったのです。

使徒たちは、自ら聖霊を受けただけではなく、キリスト者として生きるために必要な力、また、宣教活動のために必要な力を与えてくださった聖霊を他のキリスト者に伝えることもできたのです。このような使徒たちの

働きを、聖ルカが次のように描いています。「エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。」(使 8,14-17) イエスご自身が遣わして下さった聖霊を、次の弟子に伝えるこのような使徒たちの働きは、堅信の秘跡の由来になっています。凡そ 2000 年に渡って教会は、初めに使徒たちが与えられた賜物を次の世代の弟子たちに伝えてきたわけです。他の秘跡と同じように堅信の秘跡の現在の執行の仕方は、この秘跡が持つ意味と、この秘跡がもたらす恵みを表しています。

初代教会において洗礼の秘跡と堅信の秘跡は、同時に授けられていました。そのとき、聖香油を二度も塗布する習慣がありました。一回目は、洗礼を授けた司祭が受洗者の額に聖香油を塗り、その後司教が、もう一度、同じようにして、洗礼を完成させました。幼児洗礼が増えたことや、信者の数とともに共同体の数が急増して、司教はすべての洗礼式に参加することができなくなった理由で、洗礼式と堅信式は、別々に行われる習慣が広まりました。実際に今でも、司祭が(特に、洗礼式と同時に行うときや、臨終のときに)堅信の秘跡を授けることができますが、これらの秘跡を別々に授けることが望ましいです。幼いときに洗礼を受けた人は、堅信を受けることによって、自分の意志で信仰を告白し、洗礼の約束を更新すると同時に、洗礼の恵みを意識的に受けて、責任を持って信仰生活を誠実に送ることが求められています。大人の場合は、洗礼を受けてから、実践的に信仰の生活をしながら、キリスト教入門の勉強を続けることによって、キリストのこと、キリストの教え、また、教会のことをなお深く理解して、洗礼を受けた時よりも、心を開いて、洗礼の恵みをより豊かに受けることが求められています。

洗礼の秘跡とこの秘跡の完成となる堅信の秘跡を別に授けるもう一つ重

要な理由があります。洗礼を受けることによって、新しくキリスト者になった人は、イエス・キリストと普遍的な教会に結ばれますが、初代教会にあったように（1 コリ 3,3-11）現在も、多くの受洗者は、キリストよりも、洗礼を受けた司祭に、普遍的な教会よりも、受洗した小教区と強く結ばれます。多くの場合、そのような事実は、健全な信仰の生活を送ること、また、キリスト者として成長することを妨げるのです。そのために、洗礼の恵みの完成に必要である堅信の秘跡を、教会の牧者として使徒の位置を継承している司教が授けることによって、キリスト者はキリストご自身と普遍的な教会との絆を新たに意識し、この絆を固めることが求められているのです。

堅信の秘跡を授けるときに司教は、受堅者に按手して祈った後に、『父のたまものである聖霊のしるしを受けなさい』と言いながら、聖香油を塗布します。按手は、使徒時代から引き継がれている聖霊が与えられるときのしるしです。塗油によって受堅者は、聖霊の証印を受けます。この証印について聖パウロは、次のように語ります。「わたしたちとあなたがたとをキリストに固く結び付け、わたしたちに油を注いでくださったのは、神です。神はまた、わたしたちに証印を押して、保証としてわたしたちの心に“霊”を与えてくださいました。」（2 コリ 1,21-22）要するに、「聖霊のこの証印は、キリストへの全面的に所属、永遠にその奉仕者となったことを示しますが、また、終末の大きな試練に際して神が守ってくださる約束をも表すものです。」（カトリック教会のカテキズム 1296）

- 堅信の秘跡の効果について教会は、次のように教えます。「堅信は、洗礼の恵みを増大させ、深めてくれます。
- わたしたちに「アッバ父よ！」と叫ばせる神の子としての身分を強め、深めてくれます。
- わたしたちをいっそう固くキリストに結びつけてくれます。
- わたしたちのうちに聖霊のさまざまなたまものを増やしてくれます。
- わたしたちと教会との結びつきをより完全にしてくれます。

聖霊の特別な力を与え、キリストの真の証人として、ことばと行いによって信仰を広め、擁護し、キリストの名を勇敢に公言し、十字架を決して恥じないようにさせてくれます。(カトリック教会のカテキズム 1303)

洗礼を受けることによって私たちは神の命にあずからせていただき、神の子になりました。今、神の子であること、また、永遠に神の子でありつづけることは、私たちについての最も重要な事実、私たちの最も大切な身分です。けれども、私たちはこの事実を自覚し、この身分を自分の最も大事な自己認識、つまり、自分のアイデンティティにするときだけに、神の子らしく生きることができて、段々と成長し、イエスのように神の心に適う神の子になることができます。そのために、神の子としての身分を強めて、それを深める堅信の秘跡は、非常に大切ですが、常に心を開いて堅信の秘跡を通して自分が受けた聖霊の導きに従い、聖霊の働きに承諾する必要があるのです。